

オオサキ ワンドーム ミュージアム

人と大自然の青空博物館

フィールドミュージアムマップ

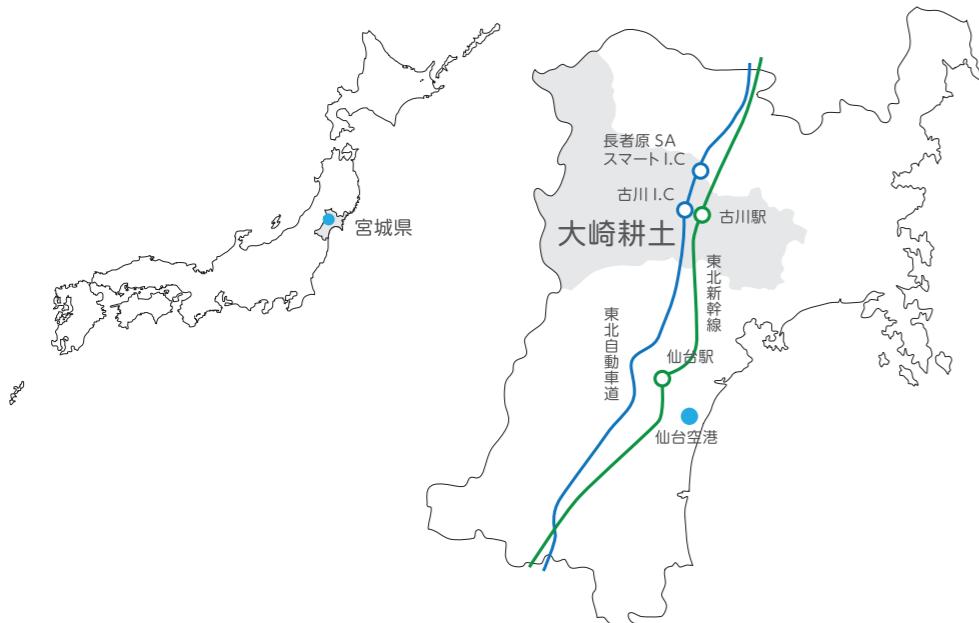


アクセス

JR(新幹線・在来線) → 古川駅
東京駅 約2時間
新函館北斗駅 約3時間30分
仙台駅 約15分
仙台空港駅 約1時間

高速道路 → 古川IC
浦和料金所 約4時間45分
仙台宮城IC 約35分

飛行機(国内線) → 仙台空港
新千歳(札幌) 約1時間10分
成田 約1時間10分
名古屋(中部) 約1時間10分
小松 約1時間
伊丹(大阪) 約1時間20分
関西(大阪) 約1時間20分
広島 約1時間30分
福岡 約2時間
沖縄 約3時間



大崎地域世界農業遺産推進協議会

事務局:宮城県大崎市産業経済部世界農業遺産推進課
TEL.0229-23-2281 Email : osaki-giahs@city.osaki.miagi.jp

色麻町 産業振興課 TEL.0229-65-2128
加美町 農林課 TEL.0229-63-3408
涌谷町 農林振興課 TEL.0229-25-8511
美里町 産業振興課 TEL.0229-58-2374

オオサキワンドーミュージアム

～人と大自然の青空博物館～

大崎耕土の厳しい自然環境を先人の知恵と努力によって、
共存してきた大崎耕土。
継承されてきた、「巧みな水管理」「豊かな農作物」「伝統的な農文化」
「生きものとの共生」「特徴的な景観」、
また、これら全体の“つながり”こそがこの大崎耕土の魅力です。
そんな人と大自然が紡いできた価値を余すことなく、
一つの大きなフィールドミュージアムとして伝えていきます。



大崎耕土
世界農業遺産

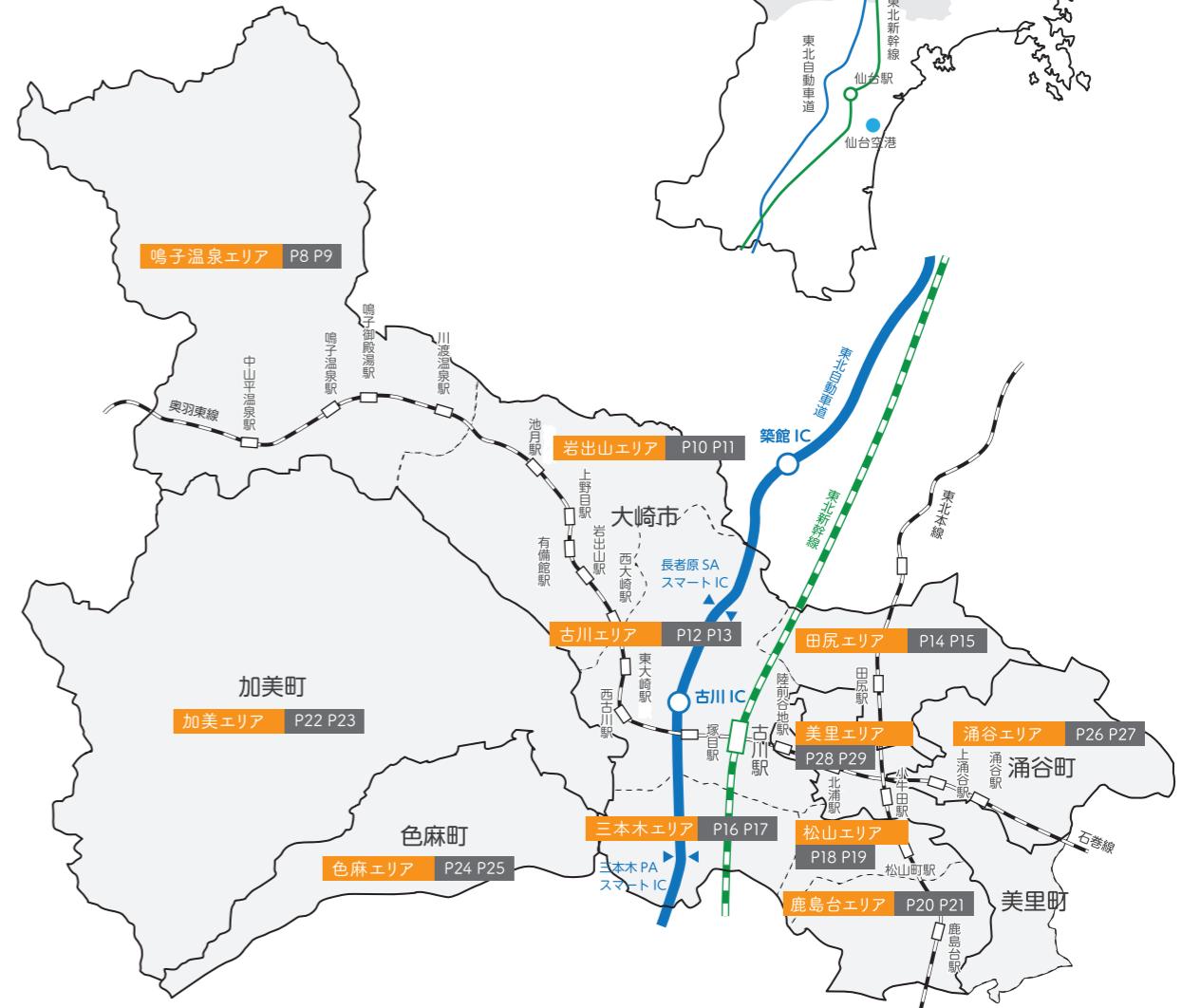


OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

大崎耕土は、2017年に「持続可能な水田農業を支える大崎耕土の
伝統的水管理システム」で、国際連合食糧農業機関(FAO)から
世界農業遺産に認定された未来につなぐ生きた遺産です。

大崎耕土と フィールドミュージアムマップの エリアについて



大崎耕土とフィールドミュージアムマップのエリアについて P1

認定要件と地域資源 P2

水管理の特徴 P3

大崎耕土のいま P4~P7

エリアマップ

鳴子温泉 P8

岩出山 P10

古川 P12

田尻 P14

三本木 P16

松山 P18

鹿島台 P20

加美 P22

色麻 P24

涌谷 P26

美里 P28

エリアマップをご覧いただく際は
下記をご参照ください(凡例)

○	市役所
○	町役場
★	小学校
★	中学校
◎	高校
X	交番
△	寺院
□	神社
■	高速自動車道
■	国道
■	県道
—	一般道
—	新幹線
—	JR線
—	行政界
—	主曲線
—	計曲線

認定要件と地域資源



巧みな水管理基盤

世界農業遺産「大崎耕土」は、国際連合食糧農業機関(FAO)が定める5つの要素で構成されています。このマップでは地域資源を要素毎に分類し、具体的に示しながら、「大崎耕土」とはなにかを地域ごとにお伝えします。



南原穴堰 詳しくはP9 1.鳴子エリアへ



持続可能な農業・食料

ササニシキやひとめばれなどの品種を生み出し、稻作を中心とした地域農業を支えています。また、大豆や伝統野菜など、多様な農作物が生産・供給されており、代表的な作物等の地域資源を示しています。



里芋 詳しくはP17 5.三本木エリアへ



伝統的農耕文化

農家の営みで、豊饒への祈りや感謝を表す農耕儀礼や民俗芸能があり、また、餅や酒・味噌・醤油の発酵食など、豊かな食文化が生まれています。代表的な伝統的農耕文化等の地域資源を示しています。



カセドリ 詳しくはP23 8.加美エリアへ



生物多様性

水田およびその周辺には、魚類、カエルやクモ、サギなどの多様な生きものが生息しています。秋から冬にかけては天然記念物のマガノが越冬し、代表的な生きもの等の地域資源を示しています。



マガノ 詳しくはP13 3.古川エリアへ



ランドスケープ

屋敷林「居久根」は、農家の屋敷を冬の北西風や洪水から守っています。「居久根」と水田や水路が織りなす大崎耕土の特徴的な景観をはじめ、代表的な景観などの地域資源を示しています。



加善坊山 詳しくはP15 4.田尻エリアへ

これらのマークは、大崎耕土ウェブサイト、現地案内板等にも使用しています。



大崎耕土の主な地域資源のあるスポットには、案内板やパネルが設置されています。スマートフォンで、その地域にまつわる映像をご覧いただけますので散策中にご活用ください。



大崎耕土ウェブサイト
URL:<https://osakikoudo.jp>

※ウェブサイトのデザインは予告なく変更になる場合がございます。



水管理の特徴



巧みな水管理分類		
	水管理の特徴	水管理の知恵
江合川流域	① 山間地における用水確保とぬるめ水路による水管理エリア（鳴子温泉）	山に囲まれている地形で、川からの取水が困難であり、トンネルを掘って水を引き込み用水の確保につなげています。また、沢からの水は冷たいため、ぬるめ水路・池・田をつくって、水を迂回させることによって水を温める工夫をしています。
	② 緩傾斜地における自然流下水路網による水管理エリア（岩出山、古川）	河川から取水し、自然流下で地域を潤しています。渇水時は地区全体で用水量を調整する必要があり、ローテーションしながら配水する「番水」を地域の申し合わせにより継承しています。
	③ 湿地帯における隧道・潜穴の用水排水併用による水管理エリア（田尻）	低平地に沼地が点在し、丘陵に遮られ排水が困難な地域でした。そこで、トンネルを掘り沼地の水を排水し、新田として利用してきました。新田利用が進むと、上流の沼地にトンネルを通し用水を確保する工夫を行ってきました。
	⑥ 低平地における水田の遊水地利用による水管理エリア（田尻、鹿島台、涌谷、美里）	江合川と鳴瀬川の下流域の地形勾配は、2,500分の1程度と非常に緩やかであり、台風や局地的な豪雨などによって大規模な浸水が生じやすい地域です。そのため、大規模な洪水に対しては水稻が比較的浸水を許容する性質を活かし、川の水を一時に水田に導水・貯水して集落への浸水被害を軽減しています。
鳴瀬川流域	④ 扇状地における堰、ため池、反復水利用による水管理エリア（色麻、加美）	河川の堰やトンネル、ため池などから取水している地域です。また、排水路の水を堰上げする反復水路を配置して、排水を再利用する工夫を行っています。
	⑤ 丘陵地における農地・ため池への隧道・潜穴配水網による水管理エリア（三本木、松山）	重要な水源の一つである「ため池」の集水域が狭く、ため池に十分な水が集まらず補給水が必要でした。そこで、丘陵の山腹に約33kmの水路を開削し、水路からため池に保水を行っています。現在も山腹水路とそこから保水された「ため池」を重要な水源として利用しています。



農業を支える、巧みな水管理システム



みなみ はら あな ぜき 南原穴堰

上野 孝作さん

1640年代、藩政時代に掘削された水路である大崎市鳴子温泉地域の南原穴堰。総延長1,880m、トンネル部分1,330m、高低差約20メートルという穴堰は、江戸時代からずっとこの地の農業を支えてきました。南原穴堰水利組合長の上野孝作さんは「掘削当時、夜に松明を灯して、対岸からその明かりを確認しながら勾配の測量をしていったの

だそうです。勾配わずか1%の水路を手堀りで作ったのは、先人たちの知恵と技術力があったからなんですね。」と感慨深げに話します。今も現役である南原穴堰は、「組合員と地域の人合わせて20名前後で見回り点検を行い、5月には土砂払い、秋の落葉後には枯葉の除去を行い、保全活動を行っています。」と、上野さん。組合員、そして地域の皆さんに見守られながら、これからも南原穴堰はこの土地の人々の生活を支える水路であり続けることでしょう。



南原穴堰を守り続ける上野さんのインタビュー映像はこちら→



ばん すい 番水の仕組み

菅原 勘一さん

私たち、番水をいまだに守りながら稻作を続けているんです。」と話します。春と夏には、地域の皆さんで共同作業を行っているそうで、「田んぼを耕作していない地主さんも積極的に参加してくれているんですよ。」と。細かなルールのもと、地域の人たちが力を合わせることで成り立ってきた番水について、「先祖代々守ってきたものを若い世代にきちんと伝えていくことが課題」という菅原さん。番水の維持には、若い人たちがどう力を合わせていくか…が鍵となりそうです。



番水を現代に受け継ぐ菅原さんのインタビュー映像はこちら→



幻の里芋を育てる、若手農家の挑戦

福田 翔太さん



大崎市三本木上伊場野地区で生産されている「上伊場野里芋」。やや小ぶりで、茎が赤紫色の里芋は、この場所でしか採れない“幻の里芋”。そんな「上伊場野里芋」を代々育てている農家に生まれ、現在若手生産者として奮闘しているのが、福田翔太さんです。

「正確にわかっているだけでも150年続いています。今は、祖父母と両親、三世代で里芋を育てているんです。」



きめが細かく、ねっとりと香り高い上伊場野里芋が“幻の里芋”と呼ばれる所以は、この場所以外で育てても決して同じ味わいにはならないから。「里芋は土壤成分に味が左右されるんです。この畑は、北側にある鳴瀬川が大昔に氾濫した時に、現在のようない土壤が形成されたといわれています。」

若い人が栽培に取り組んで、いろんな人に「上伊場野里芋」を食べてもらえるようになったら。

力仕事は若い福田さん、細かい作業は祖父母、そして販売は両親…と、それぞれの役割を担いながら日々畠仕事に汗を流しています。もちろん、10月上旬からはじまる収穫時期には、家族全員で協力しながら繁忙期を乗り越えます。「毎年、10月1日に儀式的に試し掘りをするんです。それで、どのタイミングで本格的に収穫するかを決めるんですよ。」収穫以外にも、秋は、種芋を採取して保存するという大事な作業も行います。保存のための土室は、1.5mの深さにおよび、それも自分たちの手で掘ります。



生産量はごくわずかのため、店頭に並ぶとすぐに売り切れてしまうそうです。「毎年1トンの収穫量を目指していますが、販売はほぼ三本木にある道の駅に限られてしまっていて。この地域でしか育たない里芋なので、もっともっと若い人に栽培に取り組んでもらい、いろんな人に食べてもらえるようになったら。」と、未来への展望を語ります。

代々受け継がれてきた伝統野菜の栽培を後世につなぐため、福田さんの奮闘はまだまだ続きます。



上伊場野里芋生産者・福田さんのインタビュー映像はこちら→



大崎耕土のいま

NOW OSAKI KOUDO

③



およそ1000年続く
地域の農業を
支えてきた信仰

佐々木 了章 貴主



こんぼうじ
涌谷町の笠峯寺は、観音堂、
はくさんじゅ
白山社を中心とし24
の坊からなる一山寺
院。中でも、その年の農作物の出来を
おゆみしんじ
占う「御弓神事」
で知られる白山社
さかのうえのたむらまろ
は、坂上田村麻呂
よりも以前の時代の
770年頃にこの地を蝦夷
おとひのするがまろ
討伐で訪れた大伴駿河麻呂が
建立したと伝えられています。

笠峯寺の佐々木了章貴主は「このような戦いが二度と起こらないように、弓矢を立てて祈りをさげたのが始まりだといわれています。」とその由来を語ってくれました。

白山社では、毎年の正月行事として大晦日より1月25日まで「白山祭」が行われます。祈禱祈願をする修正会、大元三会、大般若会などを経ての白山祭は、およそ1000年の伝統を守る宮座式行事です。そして白山祭の締めくくりとなる「例祭」で披露されるのが、稚児が弓矢を射る「御弓神事」です。「裏側に『鬼』と書かれた方に向かって12本の矢を射て、矢の当たり方でその年の天候などを占うのです。そしてその占いの結果を記載したお札を、みなさんにお配りしています。」と、佐々木貴主。笠峯寺は昔からこの地方の祈祷寺であると同時に、農家の豊作を願って



地域の発展と人々の
心のよりどころであるよう、
次世代にもつないでいきたい。

技術面の指導も行ってきたそうで、「昔は、白山祭に周辺集落の人たちが種もみを持ってきて交換などを行っていたんです。今までいう種苗試験場のような役割も果たしていたんですね。」と。近年では外国人観光客も多く訪れるようになったといい、「この寺についてもっと知りたい」と思っている人、座禅会、精進料理などの提供も行っていますが伝統を守ることで大崎耕土



の農家の方に尽くしていくことは変わりません。地域の発展に役立ち、農家のみなさんの心のよりどころであるよう、次世代にもつないでいきたいと思います。」と話す、佐々木貴主。昔も今も、農業の発展と豊作を願い続けてきました。笠峯寺。その祈りは、この先もずっと続いていることでしょう。

※宮座:決められた資格を有する人(笠峯寺の場合:宿坊の僧侶が神仏の前に集まり、祭りを行う組織のこと。)

山の上にある笠峯寺は本堂の裏手の景色も素敵です。参拝した際はぜひ少し奥のほうまで足を運んでみてください。眼下に広がる平野の景色は一見の価値があります。

地域を見守る笠峯寺の佐々木貴主のインタビュー映像はこちら→



大崎耕土のいま

NOW OSAKI KOUDO

④

いぐね
居久根と
ともに暮らす

大友 良三さん・親川 麗子さん



「居久根」とは、旧仙台藩領の平野における屋敷林のこと。古くから、風や雪から屋敷に住む人を守っていました。そんな居久根とともに暮らす大友良三さんは「伊達政宗公が、この辺の水田開発をしたときに植えさせたのが始まりだそうです。一言で居久根といっても、屋敷の規模によって植える木が変わんですよ」と話します。

大崎耕土にある居久根は、田んぼの中に建つ家をしっかりと囲っています。大友さんの自宅敷地は2,200平方メートルありますが、そのうちの2~3割は居久根が占めているそうです。 「仙台藩の政策として杉が推奨されたんです。杉の木は、奥羽山脈からの風をよけるだけでなく、家の修繕の材料や燃料

など、日常的に使用することができます。」



居久根配置図

大崎耕土の代表的な景観である居久根のある家。
広い敷地の中で、高木と低木を使い分け、農作業に必要な材料が調達でき、野菜の栽培も敷地内で行える、持続可能な住まい方・暮らし方の一例と言えるでしょう。
むかしは機能重視で人を守るために育まれてきたこの屋敷林が、いまでは人だけでなく動物や鳥類、昆虫にも良い環境を作り出し、大崎耕土の農業を好循環させています。



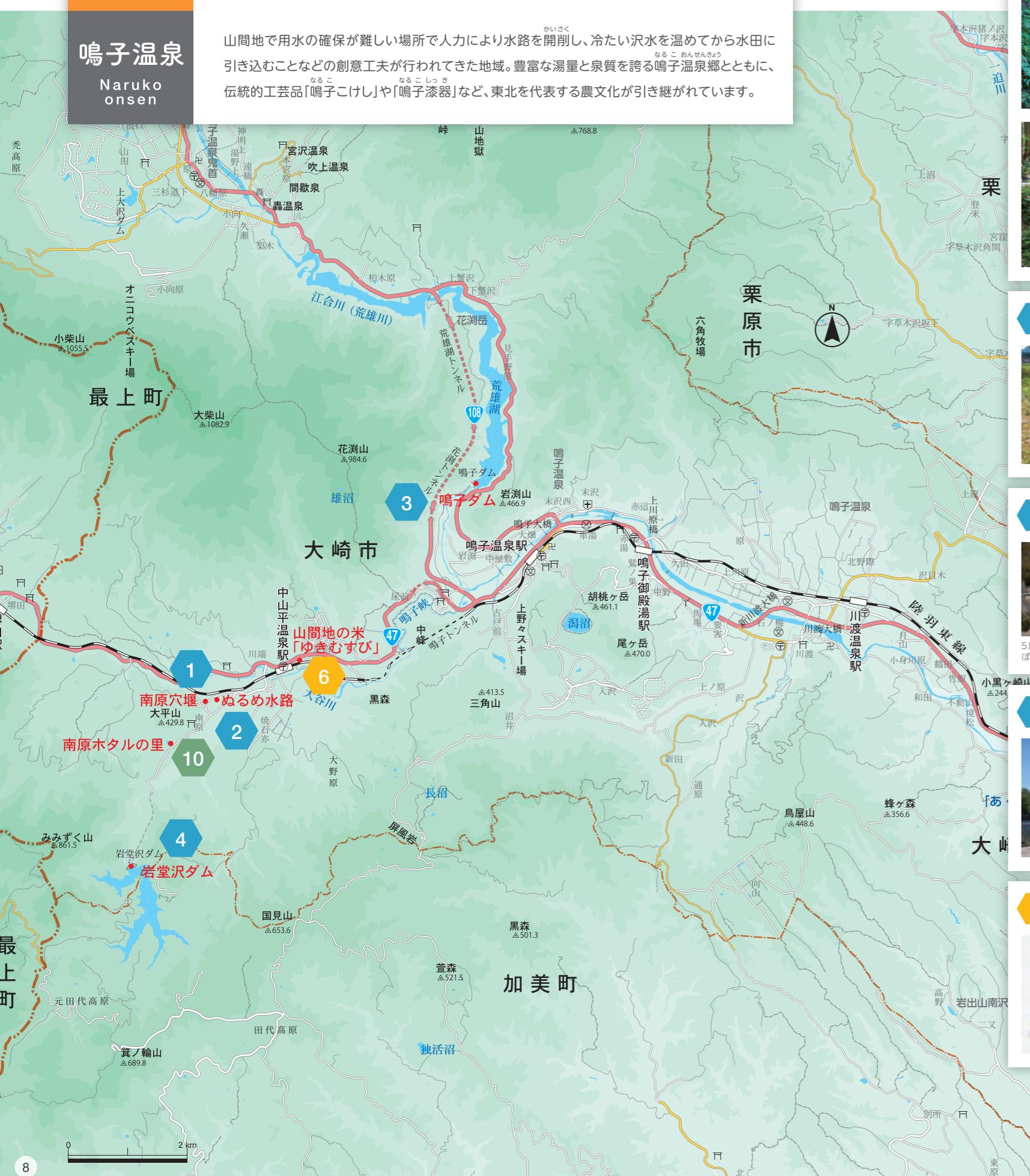
居久根でのくらしを楽しむ大友さんのインタビュー映像はこちら→



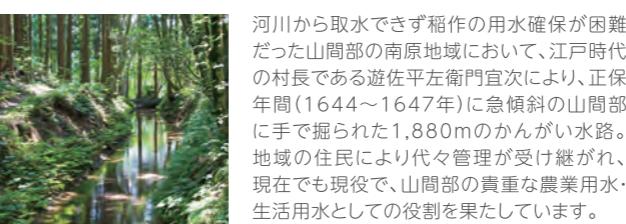
鳴子温泉 Naruko onsen

山間地の米づくりと湯治文化

山間地で用水の確保が難しい場所で人力により水路を開削し、冷たい沢水を温めてから水田に引き込むことなどの創意工夫が行われてきた地域。豊富な湯量と泉質を誇る鳴子温泉郷とともに、伝統的工芸品「鳴子こけし」や「鳴子漆器」など、東北を代表する農文化が引き継がれています。



1 南原穴堰



河川から取水できず稻作の用水確保が困難だった山間部の南原地域において、江戸時代の村長である遊佐平左衛門宜次により、正保年間(1644~1647年)に急傾斜の山間部に手で掘られた1,880mのかんがい水路。地域の住民により代々管理が受け継がれ、現在でも現役で、山間部の貴重な農業用水・生活用水としての役割を果たしています。

住所 大崎市鳴子温泉字南原54-1 (私有地含む)

2 ぬるめ水路



山間部から引き込んだ冷たい水をそのまま水田に引き込むと稻の生育が悪くなるため、水を迂回させて水温を上げる方法。鳴子の山間部で特徴的にみられる農家の知恵。ぬるめ水路のほか、ぬるめ池、ぬるめ田があります。

住所 大崎市鳴子温泉字南原29 (私有地含む)

3 鳴子ダム



江合川の治水、水力発電と利水を目的に築造された多目的ダム。国内初の日本人のみの手で作られた大規模なアーチダムであり、選奨土木遺産にも認定。ゴールデンウイークのすだれ放流や紅葉シーズンの光景は圧巻。

住所 大崎市鳴子温泉岩渕2-8

4 岩堂沢ダム



大崎耕土の水田を潤す農業用水の供給を担っています。トンネルを抜けると突然前にダム湖が広がる光景が特徴的で、神秘さをたたえる湖面は、新緑を映し出す春、青空に染まる夏、紅葉の秋など一年中が見どころです。
※冬期は閉鎖

住所 大崎市鳴子温泉宇奥羽岳

5 鬼首菜



鬼首の土壤と環境で栽培されたものだけが独特の辛味をもつ伝統野菜。塩漬けで茎・葉・根などの全てを食することができますが、厳しい冬から春にかけて漬物などの保存食として食卓を彩ってきました。現在、数軒のみが栽培する幻の野菜です。

住所 大崎市鳴子温泉字原43-1(案内板の設置場所)

6 山間地の米「ゆきむすび」

6 山間地の米「ゆきむすび」



過疎化に直面する山間地の農業を守るために立ち上げた「鳴子の米プロジェクト」が生産している耐冷品種の米。都市の消費者と頼の見える交流を図り、消費者と農家が支え合うCSA(地域支援型農業)の仕組みを実践。

住所 大崎市鳴子温泉字星沼77-84(「ゆきむすび」を営む)

7 湯治文化



厳しい自然環境での農作業の疲れを癒すため、稻刈り後に鳴子温泉郷に長期滞在することで発達した文化。自然の恵みである温泉でゆっくり癒される独自の文化は、外国人観光客からも注目を浴びています。

問合せ 鳴子温泉郷観光協会 0229-82-2102

8 鬼首神楽



起源は不明ですが、西京や関東の武士が奥羽地方に来た時に演じたものであり、岩手県や宮城県栗原市に伝わり、鬼首地区にも伝えられたといわれています。荒雄川神社の祭礼等で舞われています。大崎市指定無形民俗文化財。

問合せ 大崎市教育委員会文化財課 0229-72-5036

9 発酵食文化



鳴子では、平成16年(2004年)に「鳴子温泉ツーリズム特区」という「どぶろく特区」を取得。昔はそれぞれの民家で作られていたどぶろくが鳴子温泉らしいおもてなしのひとつとして復活し、農家レストランなどで提供されています。
○地域のお店
・鳴子温泉ブルワリー、川渡温泉旅館ゆさ

10 南原ホタルの里



南原穴堰付近の山間部に広がる豊かな田園地帯では、澄んだ水で育つホタルの群飛が見られます。南原ため池ではゲンジボタルやヘイケボタルが飛び交い、ヒメボタルも生息する全国でも珍しい共生域となっています。
見頃時期:6月下旬~7月下旬

住所 大崎市鳴子温泉字南原189

11 稲の棒がけ



一本の杭木に稻わらを円柱状に掛け、強い北西風と天日で乾燥させる伝統技術。ゆっくり乾燥するので割れ粒が少ないなどの品質面での利点があり、稻刈り時期には鳴子の中山間地で多く見ることができます。

住所 大崎市鳴子温泉鬼首字大森平付近

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



城下町に流れる内川と 発酵食文化

伊達政宗公が青年時代に居を構え、城下町として発達した地域。国指定史跡・名勝「旧有備館及び庭園」や世界かんがい施設遺産に登録された「内川」など、江戸時代の遺跡・史跡が現存し、発酵文化や凍結乾燥による食料保存の文化が大切に受け継がれている地です。



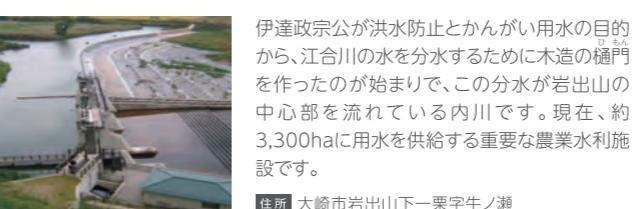
1 内川



伊達政宗公によって400年以上前に掘られた人工の河川。農業用水の確保とともに、城を守る外堀を兼ねていました。「一ノ構」という堀の内側を流れていることから「内川」と呼ばれています。平成28年(2016年)、世界かんがい施設遺産に認定されました。

住所 大崎市岩出山字上川原町7

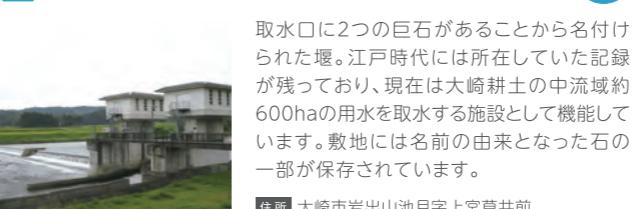
2 大堰頭首工



伊達政宗公が洪水防止とかんがい用水の目的から、江合川の水を分水するために木造の樋門を作ったのが始まりで、この分水が岩出山の中心部を流れている内川です。現在、約3,300haに用水を供給する重要な農業水利施設です。

住所 大崎市岩出山下一栗字牛ノ瀬

3 ニツ石頭首工



取水口に2つの巨石があることから名付けられた堰。江戸時代には所在していた記録が残っており、現在は大崎耕土の中流域約600haの用水を取水する施設として機能しています。敷地には名前の由来となった石の一部が保存されています。

住所 大崎市岩出山池月字上宮草井前

4 岩出山凍り豆腐



岩出山地域を代表する味覚。江戸時代末期、斎藤庄五郎が冬の換金作物として、さらには貴重なたんぱく源として岩出山にもたらしました。以来、岩出山の気候や風土にあった製法に改良を加えながら、今に伝えられています。

平成30年(2018年)、風土や伝統が育んだ地域産品を保護するGI(地理的表示)に認定されました。

住所 大崎市岩出山池月字下宮通下4-1(あ・ら・伊達の駅で販売)



5 発酵食文化



かつての城下町である岩出山では、現在も大崎耕土を代表する発酵食文化が受け継がれています。中でも、日本酒、味噌、醤油などに不可欠な麹をつくる麹屋は、大崎地域にある4軒のうち3軒が岩出山に位置しています。

- 地域のお店
 - ・小泉麴屋、菊池麹や、石田こうじや、名取味噌醤油店、森民酒造店

6 旧有備館および庭園



有備館は、江戸時代に岩出山伊達家が開設した学問所のこと。現存する「御改所(主屋)」は、二代宗敏の隠居所として、延宝5年(1677年)に建てられた可能性が高い建物です。昭和8年(1933年)、国の史跡名勝の指定を受けています。

住所 宮城県大崎市岩出山上川原町6

7 岩出山大蔵流謡曲



家元となった湯村家の会祖が京都で大蔵流の謡曲を習い奥義を究め、郷里に戻ってから能楽師として、伊達家より厚く待遇されました。謡曲は地域住民により継承され、現在は愛好家によって守られています。大崎市指定無形民俗文化財。

問合せ 大崎市教育委員会文化財課 0229-72-5036

8 田んぼ周辺の生きもの



大崎耕土には3万haにも及ぶ田んぼが広がり、様々な生きものが農業の営みと共にくらしています。沢水が流れる岩出山地域の水路は、きれいな水を好むトンボやヤマメがすみ、バイカモが生える環境が維持されています。

住所 大崎市岩出山池月字下宮道下4-1(案内板の設置場所)

9 下野目地区の居久根



旧北羽前街道が貫く旧下野目村は、江戸時代に編纂された安永風土記に収録された29の屋敷名を今に残し、農村景観がよく保全された地域です。江戸時代の肝入であった旧千葉家凜菜・上の家の農家建築は壮観です。

住所 大崎市岩出山下野目字沖川原付近

10 岩出山城址から眺める街並み



天正19年(1591年)、豊臣秀吉の奥州再仕置により米沢から城を移した伊達政宗公は、岩手沢を岩出山と改め居城としました。かつての城下町・岩出山の街並みと内川を一望でき、現在は公園として憩いの場となっています。

住所 大崎市岩出山字城山42-2

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



わたどりひときょうせいこめ 渡り鳥と人が共生する米づくり

奈良時代には城柵があったと推定され、江戸時代に沼地を新田開発により、隧道や潜穴と呼ばれる水路トンネルを掘って一大穀倉地帯に変貌させた、先人たちの知恵とロマンが詰まった地。ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」は世界有数のマガノ飛来地です。



1 萱刈潜穴



大崎沼と呼ばれた広大な沼地を水田にするため、貞享元年(1684年)～元禄3年(1690年)に人力で掘られた延長1,121mの排水トンネル。化女沼から蕪栗沼にかけた新田開発事業の中核ともいえる箇所です。現在も萱刈川につながっており、現役で穀倉地帯の排水機能を担っています。

住所 栗原市高清水萱刈

2 八幡隧道



八幡隧道は、貝ノ堀隧道とともに、化女沼から蕪栗沼にかけた八幡沼や貝ノ堀沼などの排水のため掘られた排水トンネルです。これらの隧道により、大小の沼を下流(蕪栗沼側)から順番に排水して新田開発が行われました。

※図上点線のライン(想定)が当時の排水路で、現在は沼がなくなり、周辺には美田が広がっています。

住所 大崎市田尻八幡字御殿坂

3 貝ノ堀隧道



貝ノ堀隧道は、下穴二つと上穴一つで、下穴は貝ノ堀の排水に用い、上穴は用排水路兼用です。130haの貝ノ堀開発という業績はさわめて大きく、有志の手で貝ノ堀に遺徳碑、佐賀神社が建立されました。

住所 大崎市田尻沼部字下貝ノ堀

4 八寸筒



排水路の上流と下流の境に八寸角(24cm)の穴を設け、洪水時に流下する水量を制限する仕組み。洪水時は上流地区も浸水させ、下流地区的浸水被害の集中を抑制し、地域全体を考えた水管理の知恵が継承されています。

※田尻・古川地域の境界地

住所 大崎市田尻小松字土手下1-2 地先(案内板の設置場所)

5 ふゆみずたんぼ米



ふゆみずたんぼとは、冬の間も田んぼに水を張ることで、マガノなど水鳥のねぐらを確保し、イトミミズやカエルなどの多様な生物と寄り添うことで、農薬や化学肥料を使わずに安全、安心な良質米を生産しています。

問合せ たじり穂波公社 0229-38-1021

6 桜田屋敷



築約250年の古民家。別棟の台所や座敷部などの造りから、涌谷伊達家の家中居敷であったと推定されます。正座敷前に控室、小室を備えているのが特徴。桜田屋敷から加護坊山山頂まで往復6kmの散策路も整備されています。

住所 大崎市田尻大貴桜田4

7 春藤流謡曲



江戸時代に流行した流派の一つで、仙台藩御乱舞方が伝承し、涌谷伊達家家中の大貴新田ノ目集落に根差し伝承されています。「鉢の木会」は日本唯一の春藤流を継いでいる団体です。大崎市の無形民俗文化財に指定されています。

問合せ 大崎市教育委員会文化財課 0229-72-5036

8 大崎八幡神社



およそ千年の歴史を持つ古社であり大崎八幡神社の本家。仙台市にある大崎八幡宮は、伊達政宗公が仙台開府の際、仙台に遷したものといわれています。近年の発掘調査により、境内一帯は天平9年(737年)に大和朝廷律令国家が設けた新田柵の跡地と推定されています。

住所 大崎市田尻八幡字御殿坂16

9 ラムサール条約湿地「蕪栗沼・周辺水田」



蕪栗沼・周辺水田は平成17年(2005年)11月にラムサール条約湿地になりました。最大の特徴は、10~1月のマガノの大群です。マガノは、夜は沼で休み、日中は収穫後の田んぼで落ちモミ、草などを食べて過ごします。早朝の一斉の飛び立ちや夕方のねぐら入りは、多いときには10万羽を超えます。

住所 大崎市田尻蕪栗字新大沼 付近

10 中目地区の居久根



田尻地域を潤してきた田尻川沿いに居久根が連なり、この地域ならではの田園風景が見られます。環境保全型農業や消費者交流が盛んで、居久根では田んぼで育ったナツアカネなど赤とんぼの仲間が見られます。

住所 大崎市田尻字中目 付近

11 加護坊山からの田園風景



標高224mの山頂からは、大崎耕土の水田地帯や点在する居久根(屋敷林)を一望できる。晴れた日には、仙台市や石巻市まで360度のパノラマで見渡せる。山頂付近は、天武天皇が建立した「加護坊山國家安楽寺」の跡地といわれています。

住所 大崎市田尻大沢字加護峰山178-1

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →

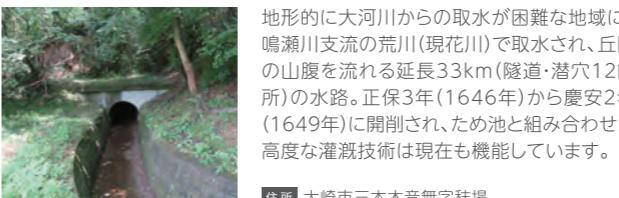


丘陵地を33kmもの水路が続く 荒川堰用水路

鳴瀬川が貴くエリアであるが水の確保に苦労し、水路の開削やため池など、水利技術を最大限活用して水田を築いてきました。国道4号線、東北新幹線、東北自動車道が縦断し、アクセスは良好。春は菜の花、夏はひまわりが咲き誇る「ひまわりの丘」は多くの方を魅了しています。



1 荒川堰用水路



住所 大崎市三本木音無字塙場

2 多高田潜



住所 大崎市三本木字大豆坂

3 桑折江堰



築造年代の記録は残っていないが、寛永年間(1624~45年)の総検地に各村が記されていることから、この当時には存在したことが伺われます。300m下流に新たに築かれた桑折江堰(桑折江頭首工)が作られ、鳴瀬川中流域約1,300haに配水しています。

住所 大崎市三本木桑折字問答川原23-2

4 上伊場野里芋



大崎市三本木の上伊場野地区の土壤と環境で栽培されたものだけが独特なねばりを生み出し、大崎耕土のテロワール(風土)がもたらす地域が誇る伝統野菜。収穫量が限られるため、秋の収穫後にすぐ売り切れとなります。

住所 大崎市三本木上伊場野字館下8(案内板の設置場所)

5 若宮八幡神社の湯花行事



無病息災、五穀豊穣を祈願し、釜で沸かした熱湯を神職が呪文を唱えながら笹の葉でわが身に打ちつける幻想的な荒行。由来は定かでないが第31代実玄により元禄年間(1688~1703年)に再興と伝わり、宮城県の無形民俗文化財に指定されています。

住所 大崎市三本木新沼若宮113

6 荒川堰絵図



安政5年(1858年)に作成された絵図。殆どの農家屋敷は居久根に囲まれるように描かれており、藩の保護政策により、大崎耕土で広範囲に居久根が普及していたことが伺われます。道の駅三本木に隣接する「三本木亞炭記念館」で展示しています。

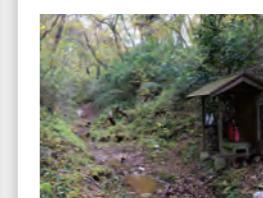
住所 大崎市三本木字大豆坂63-24

7 発酵食文化



三本木には日本酒醸造会社1軒と味噌・醤油の醸造会社1軒があります。明治6年(1873年)創業の日本酒醸造所が生んだ銘柄は、「荒城の月」の詩人・土井晩翠が「館山の頂開く酒むしろ愛宕の松の薰いみじく」と詠み愛されたという。○地域のお店
・手代木醤油店、新澤醸造店

8 音無湯殿山権現の森



地域の信仰の対象として里山の自然環境・景観が保全され、里地里山生態系のシンボルであるオオタカをはじめ、ノスリやカタクリ、ニリンソウなどが多く生息・生育し、環境省の生物多様性保存上重要な里地里山に指定されています。

住所 大崎市三本木音無字前林山43付近

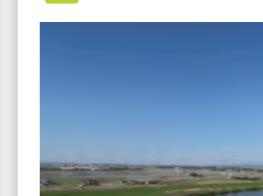
9 下宿地区の居久根



荒川堰絵図に描かれている居久根を現在も見ることができます。居久根の周囲を掘がれ、屋敷内へ取り込む水路には「カドッパ」と呼ばれる洗い場が多くみられる地域でもあります。

住所 大崎市三本木新沼字坪呂付近

10 館山公園から眺める田園風景



館山公園は、大崎氏の家臣・渋谷相模守の居城跡で、春は約300本の桜が咲く県北有数の桜の名所です。眼下には、鳴瀬川の清流を、西方には奥羽山脈の山々を、北方には大崎耕土を一望できる景観は館山公園ならではです。

住所 大崎市三本木字西沢32

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



伝統的な酒づくりの文化を 醸し出す歴史の町

江戸時代に、仙台藩の新田開発の牽引役を担った伊達家重臣茂庭家の城下町として栄えた土地。鳴瀬川本流に近く野谷地が多い不毛の地を耕した地域の人々の功績は大きい。当時の姿を今に伝える町並みや、伝統文化、酒造りの文化などが残されています。



1 ため池・反復水利用



水が不足しがちな中下流域で用水を確保する手段として、ため池が数多く設置されており、大崎耕土全体で1,152箇所におよびます。排水路の水を嵩上げして反復利用すること併せ、用水を確保する巧みな水管理が行われています。

住所 大崎市松山千石字新藏人橋52(案内板の設置場所)

2 横堤防と鈴根五郎排水機場



鳴瀬川の堤防と山との距離が狭まった場所に横堤防を築造し、氾濫水をせき止めて下流の町を守っていたため、堤防の上流は浸水常習地帯でしたが、平成元年(1989年)、鈴根五郎排水機場が完成し大幅に改善されました。

住所 大崎市松山下伊場野字鈴根五郎

3 松山セリ



独特の香りとシャキッとした歯触りが特徴の伝統野菜。農家の栽培と採種により継承され、汁物としてや漬物などの発酵食品への加工などで、厳しく長い冬を乗り切る食料の確保と豊かな食文化の一端を担ってきました。

問合せ 大崎市松山総合支所地域振興課 0229-55-2112

4 発酵食文化



松山には、酒造会社1軒と味噌・醤油の醸造会社1軒があり、酒米づくりがさかんな地域でもあります。醸造業は、大崎耕土で生産された米や大豆の付加価値向上に大きく貢献しています。

○地域のお店
・仙台味噌醤油、一ノ蔵

5 茂庭御膳



伊達家に代々仕えた重臣である茂庭家の十四代綱元が伊達政宗公のために作ったと伝えられている料理を現代風に甦らせた「茂庭御膳」。発酵食文化が根付いた松山らしく、発酵食品と地場産品が贅沢に使用されています。

○地位のお店
・割烹江戸川、華の蔵

6 金津流松山獅子躍



ササラを背負い獅子頭を被って太鼓を囃し唄いながら踊る。近世まで松山城内で踊られ、一時廃絶したものの平成5年に復活。祖靈供養、悪霊退散、五穀豊穣を祈願するもので、地元神社の例祭に奉納する神事芸能として伝承しています。

問合せ 大崎市教育委員会文化財課 0229-72-5036

7 ふるさと歴史館



地域の古墳群からの出土品や、伝来の鎧・刀剣などをはじめ、美術工芸品などを展示。歴史展示室では、地域の領主だった仙台藩重臣の茂庭家に関連した資料を中心に、原始時代から現代に至る資料などを展示しています。

住所 大崎市松山千石松山428

8 酒ミュージアム・華の蔵



酒蔵をイメージした白壁の建物で、酒づくりに使われていた桶や樽、酒の歴史や種類・特徴など酒に関する資料を展示しています。映像コーナーでは、ヤマタノオロチ退治をモチーフにしたアニメを上映。お酒のミニ知識を学べます。

住所 大崎市松山千石字松山242-1

9 田んぼ周辺の生きもの



松山地域では、日本酒の原料となる酒米が、減農薬や無農薬の方法で栽培されています。酒米の生産者などを中心とした環境や生きものに配慮した酒米づくりにより、全国では減少している赤とんぼを多くの田んぼで見ることができます。

住所 大崎市松山千石 付近

10 御本丸公園千石城址からの田園風景



千石城は、慶長8年(1603年)に松山初代茂庭良元が入り、上野館に移るまで茂庭氏の居城でした。展望台からは大崎耕土の田園風景を一望できるほか、三ノ丸は現在コスモス園となっており、秋には多くの方にぎわいます。

住所 大崎市松山千石字本丸6

11 鳴瀬川沿いからの夕焼け



鳴瀬川の堤防上を走る県道32号線からは、祭祀習俗でも数少ない山宮・里宮(やまみや・さとみや)形式の農耕神として祭られている「船形山信仰」がある船形山を望みます。背後に沈む夕日が大崎耕土を東西に流れる鳴瀬川に映える姿は幻想的です。

住所 大崎市松山下伊場野字鈴根五郎 付近

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



わらじ村長が人生をかけた 治水と排水の歴史

大崎耕土の下流部に位置し、平坦な地形のため長年水害を受けてきました。国家的プロジェクトの品井沼干拓事業などにより生産基盤を作り上げ、洪水時には遊水地を設けるなど、しなやかな水管で豊穣の大地を築いています。デリシャストマトの生産が盛んで農産物ブランド化の発信拠点です。



1 品井沼遊水地



水害に悩まされてきた品井沼を干拓し、農業で大崎耕土の恵みを享受しつつ、大規模な洪水には水稻が比較的湛水を許容する性質を活かし、河川からの水を一部水田に一時的に貯水(372ha)し、他の水田や集落への被害軽減を図っています。

住所 大崎市鹿島台大迫字下志田

2 元禄潜穴



水害に苦しめられてきた品井沼から松島湾までは7.4km、高低差は2mしかありません。元禄6年(1693年)から11年かけて僅かな高差を2,578mもの2本のトンネルを掘る難工事により沼の水を松島湾へ流すことができるようになりました。

住所 宮城郡松島町幡谷明神

3 明治潜穴



元禄潜穴の完成後、長い歳月の間に土砂などで潜穴の流れは悪くなり、大雨が降るたびに水害になりました。わらじ村長として親しまれた鹿島台村長の鎌田三之助の尽力により明治43年(1910年)新たな潜穴が完成しました。

住所 宮城郡松島町幡谷泉ヶ原

4 吉田川サイフォン



品井沼を流れる鶴田川を吉田川の下に潜らせて排水する昭和15年(1940年)に完成した川の立体交差点。吉田川を越えると高城川と名を変え明治潜穴に繋がり松島湾に注ぐ。昭和52年(1977年)、約200年を要した一大干拓事業の終了宣言が出されました。

住所 宮城郡松島町幡谷検行

5 シナイモツゴ郷の米



シナイモツゴは良好な水質や生態系が保たれている場所に生息する絶滅危惧種。「シナイモツゴ郷の会」は、シナイモツゴが生息するため池の水で栽培された米をブランド化し、自然を守る活動を積極的に展開しています。

問合せ かしまだいシナイモツゴ郷の米つくり手の会



6 デリシャストマト



大崎耕土ではトマトだけで約30品種が栽培され、農業の多様性が見られます。その中でも鹿島台特産のデリシャストマトは栽培が難しく、その希少性と高い糖度は鹿島台のブランド農産物として高く評価されています。

○主な生産農家
・デリシャスファーム、マルセンファーム

7 互市



明治43年(1910年)鎌田三之助村長が、村内14の神社を鹿島台神社に合祀したのをきっかけに、村民の生産した農産物、加工品を販売することにより村民の福利を図ろうと始まったもので、東北最大級の規模を誇る伝統の市。

開催時期・春 4月10日~12日・秋11月10日~12日

問合せ 大崎市鹿島台総合支所地域振興課 0229-56-7111

8 内ノ浦契約会100周年記念碑



内ノ浦契約会は、大正5年(1914年)に結成された契約会です。度重なる水害貧困に悩まされながらも、荒地を切り開き、共同で農業に従事し、日常生活も支え合い、地域を維持してきました。その証となる記念碑です。

住所 大崎市鹿島台広長字内ノ浦

9 菱



かつては品井沼一面に菱が生え、収穫時には「菱採り唄」が唄われていました。採れた菱はごはんに混ぜて食され、栗ごはんに似た素朴な味わいが魅力です。菱の栽培はシナイモツゴの保護活動とともに復活しています。

問合せ シナイモツゴ郷の会

10 桂沢ため池



絶滅したと思われていたコイ科のシナイモツゴが平成5年(1993年)に60年ぶりに発見されたため池。環境省は「旧品井沼周辺ため池群」として日本の重要湿地500に指定。良好な環境を保つため、池干しなどの活動が行われています。※ため池の中への立ち入りはご遠慮願います

住所 大崎市鹿島台平渡字東銭神1(案内板の設置場所)

11 吉田川堤防から眺める田園風景



地形勾配が1/2500程度(2500mで1mの高低差)と平坦で、洪水に悩まされてきた鹿島台地域が先人たちの血のにじむような努力で干拓・排水され、度重なる水害を克服し、見渡す限り広大な農地となっている光景を一望できます。

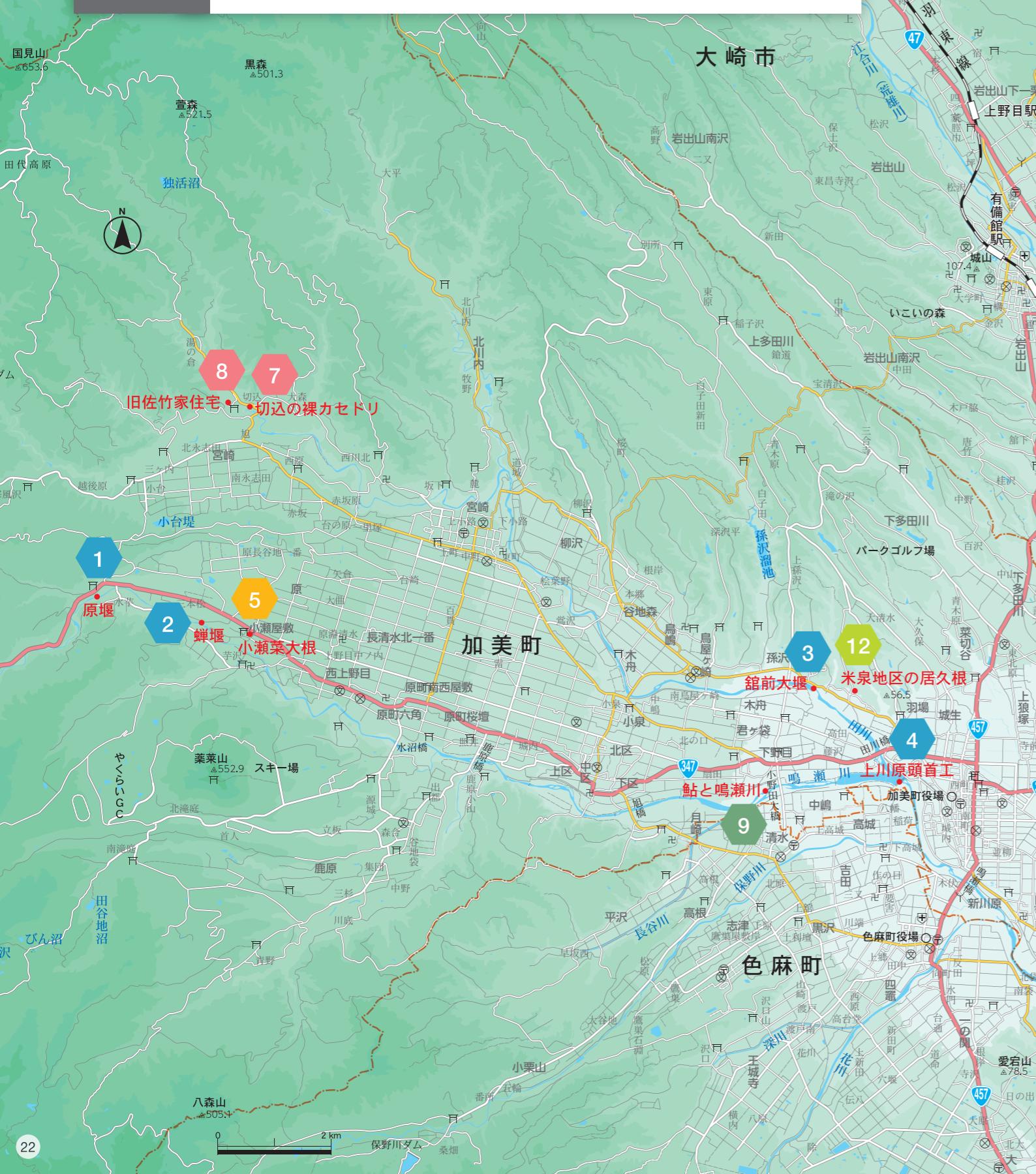
住所 宮城郡松島町幡谷検行 付近

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



困難を極めた鳴瀬川からの取水、蟻堰

鳴瀬川の上流部に位置し、農業用水の確保で苦労してきた地。山形県との県境に位置し、大崎耕土の水源地です。やくらいいリゾートを有し、約650年続く「火伏せの虎舞」や、幻の陶磁器「切込焼」の陶芸の里としても有名。



1 原堰



伊達家四代藩主綱村公の命により、寛文10年(1670年)から約10年をかけて築造された取水堰。石碑には「当時の荒蕪地(荒れ地)を水田豊穣の地とした」と記されており、現在の加美町小野田地域の田畠を潤しています。

住所 加美郡加美町字門沢谷地田

2 蟻堰



現在の加美町宮崎地域を治めた石母田氏の命により、万治3年(1660年)から約10年をかけて築造された取水堰。難工事であり、現場指揮者の子供を人柱に立てて通水祈願したと言われ、子供は縁切地蔵尊として祭られています。

住所 加美郡加美町字松田

3 館前大堰



鳴瀬川支流の田川から用水を取り水するための堰。文永4年(1267年)から12年かけて築造されました。現在の加美町中新田地域を潤しています。蟻堰を通じて灌漑された水は田川に落水し、館前堰の水源として再利用されています。

住所 加美郡加美町字米泉宇上川原

4 上川原頭首工



寛永17年(1640年)に築造。鳴瀬川本流にあつたが、管理や修理に膨大な費用と人手が必要となるため支流の田川に移設されたことから、田川堰ともいわれます。現在は、鳴瀬川と田川の合流地点に上川原頭首工として整備されています。

住所 加美郡加美町字西佳原

5 小瀬菜大根



現在では数軒しか栽培していない加美町小瀬地区の幻の伝統野菜。小瀬地区以外でつくると葉が柔らかくならないと言われています。一般的な大根とは異なり、根の部分でなく葉の部分を食べる。冬の保存食として漬物にされます。

住所 加美郡加美町字味ヶ袋菜原1-76(案内板の設置場所)

6 発酵食文化



大崎耕土10の酒蔵のうち3軒が加美町に位置しています。中新田地区には数百mの間に3つの日本酒醸造所がひしめく。味噌・醤油の醸造店と麹屋も各1軒ずつあり、大崎耕土の発酵食文化の西の中心。○地域のお店

・田中酒造店、中勇酒造店、山和酒造店、今野醸造、佐藤麹屋

7 切込の裸カセドリ



小正月に行われる火難除け、厄年払いの行事。ヘソビ(釜のすす)を顔に塗った下帯姿の男たちが各家を訪問します。この祭をやめたところ1年に7件の火災に見舞われ、以降は復活して今日に至ります。宮城県の無形民俗文化財に指定されています。

住所 加美郡加美町宮崎切込一番

8 旧佐竹家住宅



江戸時代末期の築造とみられ、主棟は寄棟造りで上手の居室部分の間取りはこの地域の江戸型の農家住宅に共通する広間付四間取りとなっています。内部見学が可能であり、当時の生活ぶりを知る貴重な家屋です。

住所 加美郡加美町宮崎切込二番70

9 鮎と鳴瀬川



鳴瀬川の清流にはアユやサケ、カワヤツメをはじめとする、河川と海を行き来する回遊魚や淡水魚など様々な魚が生息しています。豊かな自然を求めて、アユ釣りをする人の姿が夏の風物詩にもなっています。

住所 加美郡加美町字一本杉101(案内板の設置場所)

10 田んぼのノスリ



田にはカエルやトンボなど多様な生き物が暮らしています。その中にはタカの仲間のノスリがいます。ノスリは林や崖、屋敷林「居久根」でも繁殖し、水田でネズミやカエル、ヘビなどを捕食して暮らしています。

住所 加美郡加美町字味ヶ袋菜原1-76(案内板の設置場所)

11 魚取沼と鉄魚



魚沼はブナの原生林に囲まれた沼で、昭和初期までは魚沼に隣接する家々で沢山の鉄魚が飼われており、冬のたんぱく源でした。魚沼は昭和8年(1933年)に国指定の天然記念物に指定されています。宮城県絶滅危惧I類。

住所 加美郡加美町宮崎字切込2-70(案内板の設置場所)

12 米泉地区の居久根



屋敷内に水路を引き込んだ居久根が見られるほか、樹齢300年以上と推定されている町指定天然記念物「高橋家のサイカチ」があります。高橋家は大崎葛西一揆(1591年)の後に帰農した大崎氏の家臣であり「再勝」を願って植えられたとも伝えられています。

住所 加美郡加美町米泉高田原

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



ふな がた やま しん こう ふもと ひろ 船形山への信仰と麓に広がる 居久根の風景

奈良時代の『続日本紀』に記され、江戸時代には、扇状地の地形を利用した堰やため池等による水利技術が磨かれてきた地。愛宕山からは大崎耕土を一望でき、公園内の1万本のシャクヤクは夏の風物詩。全国唯一の手掘りの河童のご神体の神社がある河童のふるさと。



1 荒川堰



船形山連峰を源にもつ荒川(現在の花川)に設けられ、大崎市三本木までつながる全長33kmの荒川堰用水路の取水源。仙台藩の2代藩主忠宗の子旨規が一帯の100町歩(100ha)の野谷地を開拓するために堰を築いたのが始まり。

住所 加美郡色麻町王城寺下川原

2 原潜



荒川堰用水路にある12の隧道・潜穴の上流部にある潜穴(水路トンネル)。原潜で直角に曲がり、東方向に向きを変え、旧石器時代の遺跡がある丘陵地帯に向かって伸びていく。付近には現在でも穴堰という地名が残っています。

住所 加美郡色麻町四竪字新上新田

3 えごま



シソ科の植物で食用や油を取るために栽培される。食べると10年長生き出来るとの謂れからジュウナンとも呼ばれる。餅食文化の一つとして、すり潰して味付けした「じゅうねんもち(ずねもち)」としても食されます。

問合せ 色麻町産業開発公社

4 えごまたまご



色麻町で盛んに栽培されている「えごま」を飼料に加えた地域特産のたまご。JA加美よつばの農産物直売所「愛菜ハウス」では、えごまたまごのかけごはんが食べられます。ご飯とえごまたまごはお替り自由です。

住所 加美郡色麻町大字上新町158-2

5 色麻町農業伝習館



愛宕山公園内にあり、能や陶磁器などの展示に加え、世界農業遺産に認定された荒川堰や居久根などに関する企画展が開催されています。最新の視聴覚施設と快適な宿泊施設もある研修施設が備えられています。

住所 加美郡色麻町四かま東原1-40

6 船形山信仰



鳴瀬川源流の船形山は、古来より山神や水神、田の神を祀る靈山として地域の住民から礼拝されてきました。山頂には船形山御所神社が建てられ、水上弁財天が祀られています。田植え後に参拝する「五月詣り」と呼ばれる慣習が現在も続いています。

問合せ 色麻町公民館 0229-65-3110

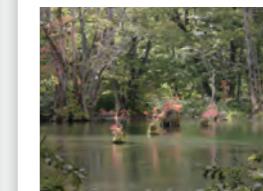
7 清水神楽



清水神楽は台詞のない無言劇の「里神楽」。南部神楽の流れを汲み、20余曲で構成されています。清水観音堂には、明治33年(1900年)に奉納された神楽を教授している絵馬があり、当時の模様を伝えています。

問合せ 色麻町公民館 0229-65-3110

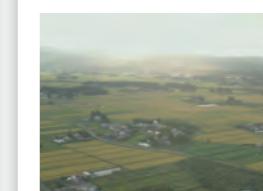
8 鈴沼



船形山の登山道、色麻コースの入り口の色麻大滝から徒歩10分程度にある沼。ブナの原生林が周囲を覆い、新緑や紅葉などの季節の移ろいの中で、湖面に浮かぶ低木が、浮石に盆栽が並んでいるように見える神秘の沼。

住所 加美郡色麻町小栗山字薬師堂(案内板の設置場所)

9 花川上流域の居久根



荒川堰用水路となっている花川(昔の荒川)によりつくられた扇状地に広がる平野部に広がる農村地帯。大崎耕土の特徴である居久根の形態が最も良好に残されている地域の一つです。

住所 加美郡色麻町王城寺字八原 付近

10 愛宕山



居久根が広がる大崎耕土を一望できる小高い山。愛宕山公園では、4月の桜、5月下旬～6月上旬のシャクヤク、7月のアジサイ、9月～10月中旬の百日紅(サルスベリ)など季節を通じて楽しむことができます。

住所 加美郡色麻町四竪字東原1-12

デジタルマップによる詳しい紹介はこちら →



笠峯寺を中心とした伝統的な農耕文化

町の中央に笠岳山が鎮座し、かつては南側に名鰐沼、北側に鹿飼沼などが点在していた低湿地。涌谷伊達家の居城であり、干拓や排水により変貌を遂げました。日本遺産の「みちのくGOLD浪漫一黄金の国ジパング、産金はじまりの地をたどるー」に認定された日本初の金の産地です。



1 江合川と旧北上川の合流点



北上川改修の象徴的な地。伊達政宗公の家臣川村孫兵衛が実施した現在の旧北上川・旧迫川・江合川の付替工事によって下流域の洪水被害が激減し新田開発が活発になり、江戸に米を輸送する水上輸送網が確立されました。

住所 石巻市和済宇川原 付近

7 正月儀礼「御弓神事」



1月に稚児が矢を射てその年の天候や作柄を占う祝儀礼です。全国的にもめずらしく、古式に則り数百年にわたって引き継がれてきている正月行事であり、宮城県指定無形民俗文化財に指定されています。

住所 遠田郡涌谷町笠岳神楽岡1

8 笠岳白山豊年踊り



東北各地から種もみの交換のため多くの人が集った際に開かれた祭礼で、かつて種蒔神楽と称して奉納されていた神楽を復活させたものです。保存会が結成されており、稻作の豊年を祝して舞われています。

問合せ 涌谷町生涯学習課 0229-43-3001

9 相野沼



春には桜並木が満開となり、夏のお盆頃には相野沼一面に蓮の花が咲きます。秋から冬にかけて、ハクチョウをはじめとした渡り鳥たちが越冬のために飛来します。

住所 遠田郡涌谷町上郡相野沼

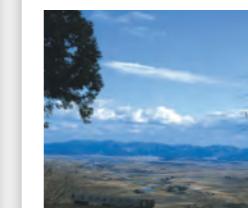
10 棒掛けと赤とんぼ



涌谷地域では積極的に環境保全型農業を取り組まれており、稻を自然乾燥させる棒掛けが行われています。笠岳を背景に、棒掛けの周囲を童謡などで親しまれてきた赤とんぼが舞う光景は日本の秋の原風景を感じさせます。

住所 遠田郡涌谷町太田字土手添 付近

11 笠岳山から眺める田園風景



標高236mの小山であるが町の中心に位置し、頂上からは視界をさえざるもののがほとんどないため眺望に優れ、大崎耕土に広がる居久根の景観はもちろんのこと、遠く岩手県の山々や牡鹿半島、金華山まで望むことができます。

住所 遠田郡涌谷町笠岳神楽岡1

12 笠岳山付近の居久根



大崎耕土で多く見られる屋敷林「居久根」。冬の北西風や洪水被害から農家の屋敷を守るために配置されています。人が植えた植物の他に鳥や風に種が運ばれるなどして多くの植物が生育し、多様な動物が暮らしています。

住所 遠田郡涌谷町太田字土手添

デジタルマップによるより詳しい紹介はこちら →



名鮓沼遊水地におけるしなやかな水管理

鳴瀬川と江合川が流れる大崎耕土の下流域の低平地。名鮓沼などの沼地の干拓や排水事業により一大農業地帯として変貌を遂げ、洪水時には水田に水を導入するしなやかな水管理が行われています。小牛田は古くから交通の要所として栄えた場所であり、郷土料理すっぽこ汁で知られます。

The map highlights several key locations:

- Point 1: 名鮓沼遊水地 (Naruse沼遊水地)**
- Point 2: 鞍坪潜穴 (Anpon Kansaku)**
- Point 3: ミヤギシロメ (Miyagi Shirome)**
- Point 4: 発酵食文化 (Fukkōshoku Bunka)**
- Point 5: 郷土料理 すっぽこ汁 (Kōtore Riron Soppoko Jiru)**
- Point 6: 山神社 (Yamashinsha)**
- Point 7: 不動堂神楽 (Fudō-dō Kankutsu)**
- Point 8: 鳴瀬川のハクチョウ (Naruse River's Whooper Swan)**
- Point 9: 鳴瀬川中流堰から眺める田園風景 (Rural landscape seen from the middle reach of the Naruse River dam)**
- Point 10: 木間塚十王山公園から眺める田園風景 (Rural landscape seen from the Muimazuka Jōōzan Park)**

1 名鮓沼遊水地



名鮓沼は江合川に注いでおり、河川の水位が上がれば排水不能となり頻繁に水害が発生する地域でした。現在は干拓で水田に変貌し、洪水時に水をためる遊水地(150ha)としても活用される“しなやかな水管理”が行われています。

住所 遠田郡美里町練牛字大沢堤下付近

6 山神社



藩政時代から安産の神様として東北地方に広く知られ、多くの参詣の人々でぎわいます。祭神は山を守り、山から物を生む神であり、また縁結び・子授・安産・子育に御利益があることで大きな信仰を集めています。

住所 遠田郡美里町牛飼斎ノ台37

7 不動堂神楽



南部神楽の流れを汲む不動堂神楽は、明治32年(1899年)頃に伝えられました。演目の豊富さや動きの激しさ、太鼓や声の躍动感あふれるリズムなど、特有の華やかさを色濃く残しています。美里町の無形民俗文化財に指定されています。

問合せ 美里町近代文学館 0229-33-3030

8 鳴瀬川のハクチョウ



美里町を南北に流れる鞍坪川の水を鳴瀬川に排水するため、小高い丘の下に掘られた元禄11年(1698年)に完成した潜穴(水路トンネル)。これにより、一帯の新田開発が可能となり、現在は平坦で優良な農地となっています。

住所 東松島市西福田長峯

3 ミヤギシロメ



大崎耕土は大豆の生産が盛んな地域であり、美里地域もその一つです。ミヤギシロメは県が奨励する基幹的な品種であり、加工に適していることから。味噌や醤油、納豆などの原料として大崎耕土の食文化を支えています。

問合せ 美里町産業振興課 0229-58-2374

4 発酵食文化



美里町には、酒造会社1軒と味噌・醤油の醸造会社1軒があります。鎌田醤油は天保元年(1830年)創業で、大崎耕土では最も古い味噌・醤油の醸造所です。川敬商店は「全国新酒鑑評会金賞」を15年連続で受賞した蔵元です。

○地域のお店

・鎌田醤油、川敬商店

5 郷土料理 すっぽこ汁



古くから伝えられている郷土料理。元々は仏事の本膳の後にお手伝いの方々に振る舞つたものと言われ、季節の野菜と油揚げ、鶏肉、こんにゃくなどに温麵を加えてくずあんかけにしたもので。

○地域のお店

・上野屋、幸楽、花月食堂、そば処大名など

9 鳴瀬川中流堰から眺める田園風景



鳴瀬川中流堰は、鳴瀬川流域の治水とともに、鳴瀬川の右岸側の3,500haを潤す農業用水の確保のために作られた重要な水利施設です。北は田尻、東は涌谷、南は鹿島台、西は古川の広大な大崎耕土を360度望めるパノラマが広がります。

住所 遠田郡美里町字一本柳付近

10 木間塚十王山公園から眺める田園風景



木間塚地区にある小高い丘の十王山公園には、樹齢750年余りと言い伝えられる楓の木が悠然と立っています。桜の木やつじも植えられており、花見シーズンには町内外より散策に訪れ、憩いのひとときを過ごしています。

住所 遠田郡美里町木間塚字十王山15-1

デジタルマップによる詳しい紹介はこちら →

